



救われるということは

場所をたまわるということです

宮城  
顕しづか

坊守です。現在中学生の次男がまだ小学校低学年のころ、学校から帰宅し私がまだ夕食の準備を始めていない事になりました。（今もたまにあります：笑）でも、作り始めた気配を感じると、安心して楽しそうに遊び始め、その様子を見た私も作る力が湧いてきました。つい「私が作ってあげている」という気持ちでいっぱいになりますが、お互いがお互いの居場所を作っています。家族も、職場も、学校も、自分の居場所はたくさん関係によって成り立っています。それを自覚できた時、「自我」がゆるんで優しさが生まれる。少しでもそんな場面が増えたら、と思っています。

## お盆までの行事を紹介

詳細は、別紙のご案内を確認ください！



ふるつて  
ご参加ください！

### お内仏お給仕講習会

7月 16日（土）

※お盆を迎えるにあたっての  
お飾りの説明をいたします。



仏具販売も  
ありますよー！

### 仏具磨き奉仕日

7月 29日（金）

※お盆に向けて、

手が足りません！

お寺の大きな仏具を磨きます。

### 仏具を磨いてみよう

7月 28日（木）

※仏具の磨き方を学びます。  
※月一報恩講での活動です。



※毎月一回日曜日の朝  
開催中。お勤めとお茶の  
時間もあって気軽に参加  
できます。

### おそうじの日

7月 24日（日）



# 九州教区長崎組第三ブロック

## 「真宗入門講座」 本山上山の旅。報告！

5月14日（土）～16日（月）



九州教区長崎組第三ブロックで開催された真宗入門講座の本山上山が無事終了。新型コロナの影響で講座終了まで三年の月日がかかりました。当初正法寺から五名の参加者がおられましたが、諸事情で本山への研修参加

は三名となりました。第三ブロック（佐世保・波佐見・川棚・大村地区）の寺院同士での交流、講師による講義、本山での帰敬式と、充実の講座の感想を、正法寺の参加者より伺いました。



■帰県してしばらくは、本山の莊嚴さと美しさ、若者も含めた参詣者が自由で和やかに過ごしている姿を思い浮かべていました。上山までの入門講座やお寺での月一報恩講によって、五十年近くの疑問が阿弥陀如来という方向性を見出しましたが、新たに上山初日の藤本愛吉先生による法話で直接頂いた言葉について確かめたいとの思いです。将来、妻もこの感動を受けられればと思っています。

長岡浩三（玖島）



お待ちしてまーす！

今後また、このような講座が行われると思思います。（再来年の予定）参加してみたいという方はお寺の方にお申し出ください。

川竹成稔（小路口）

■二〇一九年晚夏の第一回真宗入門講座から三年の月日を数え、待ちに待った本山上山研修に参加させて戴くことができました。思えば当初、これからどんな研修があるのか不安でしたが、回数を重ねるにつれ藤本愛吉師をはじめ他のお寺のご住職、門徒さんともだんだんと打ち解け、次の講座が楽しみになるほどでした。本山では皆で寝食を共にし、同じ道を歩む者同志語り合うことができ、あらためてこの教えの素晴らしさに出逢うことができたように思います。

濱本翔吾（竹松町）

■三年間の真宗入門講座研修の後、京都東本願寺でおかみそりや三宝へ帰依を誓う帰敬式を受け法名を頂きました。親鸞聖人御真影の前で歌う恩徳讃には感激でした。講座の驚きは、南無阿弥陀仏がサンスクリット語の音写で意味が正信偈最初の二行であったことです。京都体験では御真影の側に聖徳太子の掛軸、御奉仕に登った御影堂門に金色の弥勒如来像、青蓮院正門の大楠、男女平等への疑問から叢山下山など興味深く、研修を機にお寺での聞法に努めます。お世話になり有難うございました。





## 「食事・仏事・大事

## ～食事と仏事の交わるところ～

5月29日 13:30～ 福岡天神エルガーラホール

ゲストパネリスト：土井善晴（料理研究家）

コーディネーター：吉元信暁（九州大谷短大）

パネリスト：津垣慶哉（正應寺）

長野 文（正法寺）

⇒正法寺坊守も登壇しました！



一汁一菜から料理を始めれば  
いいと知って、楽になりました。

# 洗心会活動報告

月一報恩講  
しんらん聖人の命日のつどい

春の法要 五月八日(日)

【釈尊誕降法要／初参り式】を開催！



新型コロナウイルスの影響で、中止が続いた春の法要ですが、今年は無事開催できました。今年は講師を法務員の島田さんにお願いし、新しいスタートにもなりました。

会員の方三〇名ほどの参加があり、盛会となりました。年々会員も減っており開催の形も心配されます。役員を中心にこれから開催形態についても検討して参ります。



新型コロナウイルスの影響で、中止が続いた春の法要ですが、今年は無事開催できました。今年は講師を法務員の島田さんにお願いし、新しいスタートにもなりました。今年は講師を法務員の島田さんにお願いし、新しいスタートにもなりました。



月に一度は  
導く時間  
行いが  
わたしを

報恩の心に学ぶ  
自分で書きたい方

お寺に行こう！

月一報恩講では、自分で書く「正信偈本」を作成しています。  
9月に製本し、完成の予定。



昨年11月の月一報恩講では、東本願寺の「報恩講」について学びました。一週間にも及ぶ法要の成り立ちを表にして説明し、報恩講でしか勤まらない御文や声明などを動画で観ました。正法寺では聴くことのない速度の速いお勤めや、全身を揺らしながらの声明などにみなさん見入っておられました。いつかは実際に本山に上山してそれらを体感してみたいですね！

# これも仏教用語?!

普段から使っている言葉には  
仏教由来の言葉が実はたくさん。  
そんな言葉を紹介します。今回の言葉は、

## 「世間（せけん）」



私たちは何かにつけて「世間」という言葉をよく使います。どんな意味で使っているか、少し考えてみましょう。何か困ったことがあっても、きっと誰かが手助けしてくれる。人間、そんなに捨てたもんじゃないよ。そういうことを「渡る世間に鬼は無し」といいます。最近では、全く反対に、薄情な世相を揶揄（やゆ）しているのでしょうか、テレビ番組に「渡る世間は鬼ばかり」というものまであります。そのほか、「世間体が悪い」「世間に顔向（あお）けができん」「世間の物笑いになる」というように、私たちの行動原理にまでなつているような使われ方もあります。

いずれにしろ私たちが用いる世間はわが家、わが村、わが国というよう非常に狭い範囲を指しています。そういう狭い世界を「これでいいのか」と問うこともなく、むしろ、その「世間」を絶対化し、同調し、その中に自分自身を埋没させていくことになります。

しかし、仏教で「世間」という場合は、衆生世間へ生きものと器世間へ生きものの生きる環境）を指していますから、私たちが生きる

世界全体を課題にする概念です。この世界全体を言い当てようとする本来の「世間」の言葉に立ち返って、私たち自身と世界のありようを考えてみる必要があるのでないでしょうか。

尾畠文正・同朋大学教授



おかずのみの弁当もあります

（法務員／島田）

当には唐揚げのほか日替わりの総菜

が数種類入って、お値段は三五〇円～五〇〇円とお財布にも優しいです。

皆さんも早めのランチに是非、ご利用ください。尚、オードブルもできるので、

詳細は直接お店にお問い合わせください。



**味味屋  
あじみや**

営業時間 / 11時から  
売切れ次第終了  
〒856-0814  
大村市松並1丁目293-2  
電話: 0957-53-0316

みつけた！

## 今後の日程

毎月28日 13:30~15:30 参加費: 500円

7月28日(木) 仏具を磨いてみよう（お莊厳を知る①）  
「そろそろ仏具、磨きませんか？」

9月28日(水) 感覚で受け取る仏教の教え  
「アート作品から知ろう！」

10月28日(金) 花をいけてみよう（お莊嚴を知る②）  
「お花をいけるちょっとしたコツ」

11月28日(月) 東本願寺の報恩講をみんなで観よう

12月5日~8日 御正忌『報恩講』に参ろう!!  
今年は帰敬式も執行予定です。

本についてのお話、手作り念珠、12月に行う帰敬式に関連したお話、バスワークなど順調に進めています。



月一報恩講  
行いがわたしを導く時間



まずは興味のある回から  
初めての参加でも、  
一回だけの参加でも大丈夫。  
お越しください！



# 真宗・入門



① 御仏飯  
おぶつばん

② 華瓶  
けいひょう

③ 花瓶  
かひん

※この写真は、最も道具の揃った状態のものです。これが全て必要というわけではありません。現在はご自宅の事情で さまざまな形があります。今回はこの中から、『御仏飯』と『華瓶』と『花瓶』についてご紹介します。説明を参考に、できる限りご準備ください。



しんしゅうおおたには  
**正法寺は真宗大谷派の寺院です**

## もっそり 盛槽の使い方



押し出し棒と筒を  
用意します



押し出し棒を筒に入れて  
中にご飯を詰めます



御仏飯完成



花瓶に生花を  
いける練習



けいひょう しきみ  
華瓶と檻

『大無量寿經』によると、「淨土ではいつも素晴らしい食事が用意されているが、その美しさを見て香りをかぐだけで満足し、決して味や欲に執着することはない。」と説かれています。その淨土の徳を讃えお莊嚴するのが御仏飯です。朝のお勤めの後にお供えし、(時間の許す方は)正午までにお控えします。大谷派では御仏飯を円筒状(蓮のつぼみ型)に盛ります。綺麗に盛れるよう左記の様な専用の容器(盛槽)もあります。

花瓶には檻といふ葉を入れます。檻は水の腐敗を防ぐとされています。それは淨土にある常に清らかな水を表現しています。亡き人のために湯呑はいりません。それよりも水が無くならないように毎日花瓶を確認するようにしましょう。花瓶に生花をいける方法については、10月28日の月一報恩講で練習しますのでぜひお越しください。

御  
仏  
飯  
おぶつばん

華  
瓶  
けいひょう

花  
瓶  
かひん

# お内仏の莊嚴(お飾り)を知ろう!



# 住職が語る『正信偈』 第20回



前回学びましたように、七高僧の一人である天親菩薩は、「大無量寿經」という經典を依り處として眞実の教えを顯かにしてくださいました。すなわち、一步一歩階段を上りながら自らの力で頂上を目指すという困難な道のりは到底歩むことができない私たち凡夫のために、ことわりを超えて不思議な功德によつて頂上に至らしめてくださる阿弥陀如来の大きな誓願のはたらきを、顯かにしてくださいましたのです。

なぜそういった常識ではあり得ないことがおこりうるのか、そのことを親鸞聖人は「広由本願力廻向」、「広く本願力の回向」と仰っているのです。まず回向という難しい仏教語が出てきましたので、この言葉を解説していきましょう。回向というのはその言葉どおり「回し向ける」という意味です。自分がなした善い行いの結果は、本来自分自身にもたらされるはずです。ですが仏教では自己の善行の結果である功德を、別の人には、もしくは一切の人々に、回し向ける差し向けるという考え方があります。善行を単に自分の功德とすることが本物の功德なのだろうか、功德をあらゆるものに振り向けて共に救われていきたいと願うのが真の功德といえるのではないかという考え方です。のことからも私た

ち凡夫が自力によつて救われていくと  
いうのは不可能ではないでしようか。  
自分のために善行を積むことも困難で  
あるのに、一切衆生のためにそれを行  
うということは無理なことです。です  
から「広く本願力の回向によつて」と  
いわれるよう、阿弥陀如来が全ての  
ものを救おうと広く誓われた本願の功  
徳のはたらきによつて救われていくし  
かないのです。

を願う」と自らの信仰を表明されます。まず「お釈迦様よ」と呼びかけておられますね。天親菩薩はお釈迦様が亡くなつて九百年ほどたつた時代の方ですから、当然直接教えを受けられた方ではありません。ですが「阿弥陀如来の本願との出遇い、お念佛の教えとの出遇いは、それを説いてくださつたお釈迦様のおかげである」と報恩の思いで受け取られたから、自ずと「釈尊よ」と表白されたのでしょうか。凡夫の身を生きるという苦の人生から救われていく道を、「大無量寿經」を通してお釈迦様が説いてくださつていた。その阿弥陀如來の本願との出遇いによつておこってきた心を天親菩薩は「一心」と表現されたのです。

「この「一心」について、親鸞聖人は、「一心」というは、教主世尊の御ことのりをふたごころなくうたがいなしとなり。すなわちこれまことの信心なり」と説明されています。お釈迦様が仰つていることは間違いないとふたごろなくうなづく時、阿弥陀如来の救いに身を任せようという帰命の心もまた沸き起こつてくる。そしてその「一心」という心は阿弥陀の淨土へ生まれたいという願<sup>がん</sup>生の心へと展開していった。その天親菩薩の眞実の信心を得たという感動の告白を、その通りであるないと共感されて讃えられているのが今回の一文ではないかと思います。

# 正法寺について

## お寺に身をおく

目まぐるしく変化していく現代社会においては、  
お寺はあまり変化がなくつまらないと感じるかもしれません。  
しかし長い歴史の中で受け継がれてきた教えや、  
それを伝えてきた場は、変化の著しい社会に身をおく我々にこそ、  
大切な何かを教えてくれるのではないかでしょうか。



## お念佛の道

親鸞聖人が明らかにして下さった「お念佛の教え」は、  
阿弥陀如来の大いなる慈悲につつまれて、  
何が起こってくるか分からぬ苦難に満ちた人生を、  
明るくたくましく力強く生きていく智慧と力を、  
この身にいただいていく教えです。



## 届いていく場

そのような仏教の教えが届いていく場が真宗寺院の本堂です。  
老若男女問わず皆様に開かれた聞法道場として正法寺はあります。  
どうぞ様々な紹介などをご覧いただき、  
まずはご自分にあった形でお寺にお越しいただけたらと思います。

正法寺住職・坊守

正法寺ホームページ <http://omura-shoboji.jp/>

正法寺 大村

検索

専念山 正法寺  
大村市杭出津 2-708  
☎ 52-2247

モバイル端末からアクセスする場合は  
QRコードをご利用ください



正法寺LINE公式もあります。

まずはお友達登録を！



LINE登録者、

増えています!!

真宗大谷派

専念山 正法寺

大村市杭出津2-708 TEL 52-2247